

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

### 「中堅職員研修(第5回)」

日時:平成27年12月7日(月)

会場:青森県総合社会教育センター 第1研修室

#### 1. 講義:「よりよい親子の関係づくり ～家庭教育の重要なポイント～」

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(中堅職員研修 第5回)が12月7日(月)、当センターで実施され、34名の社会教育関係職員等が参加し研修が行われました。午前中の講義では弘前大学教育学部准教授増田 貴人 氏より家庭教育に関する要点を御自身の育児体験等を基に、様々な視点や角度から、わかりやすく説明していただきました。受講者は真剣な表情で話を聞いていました。

【講義の様子①】



【講義の様子②】



#### 【講義のポイント】

- ・ 男性の育児休暇取得率はまだまだ低く、背景には親子だけではない**環境的な要因**が大きく関わっている。
- ・ 家族への心理的支援も含めた拡大された支援がなければ、子供にいくら適正な支援をしても届かない。
- ・ 虐待などの不適切な養育をしないためには、回避する助け合いが必要。
- ・ 子育ては子供から学ぶという姿勢や**共発達**(共に育ち合う)という視点を持つことが大事。
- ・ 家庭教育に必要なのは普段の生活や振る舞いなどの「**無意図的働きかけ**」の効果に気づかせること。
- ・ 育児は親の行為に注目されがちだが、子供の主体性を含めて双方向的に考えないといけない。
- ・ 親と子供の関係は**双方向性**のコミュニケーションが大事。単方向ではとても伝わりにくい。言いっ放しでは効果が薄く、親の自己満足になることがある。
- ・ 子育ては愛情が大切。愛情がなければ心理的安定を得られない。愛情をどう注ぐかが大事である。**注ぎ先**をしっかりと見ることが大切である。(愛情を注ぐ行為は、注ぐ側の**自己満足**ではいけない。)
- ・ 子育てという行為は“**大人**”(育てる・援助する側)と“**子ども**”(育てられる・援助される側)との**相互作用**で形成される。

#### 【講義のまとめ】

- ・ 育児は親子だけの問題ではないこと(育児休業・児童福祉法)
- ・ **共発達**(ともに育ち合う)の視点を持つこと(“愛情を注ぐ”・繋合希索性)
- ・ 育児は親の行為に注目されがちだが、子どもの**主体性**を含めて**双方向**に考えないといけないこと(育児の感覚は忘れられる・多くの異なる子ども観や育児観・自立と依存)
- ・ 誰しも適切な養育を求めている(おかしな行動にはそれ相当の環境要因がある)
- ・ 愛情と誇り(乳幼児期には愛情が必要)

## 2. 演習

午後は引き続き、弘前大学教育学部准教授 **増田 貴人** 氏による演習が行われました。3つの班に分かれてグループ討議が行われました。前半は「これからの親が家庭教育の中で子ども達に身に付けさせたい能力」について、**8つの能力**（①専門性 ②全般的管理能力 ③自律・独立 ④保障・安定 ⑤起業家的創造性 ⑥奉仕・社会貢献 ⑦純粋な挑戦 ⑧調和ある生活様式）から2つの能力を選択し、それらを育てるための具体的な手立てについて各班で話し合い発表していただきました。話し合いでは建設的な意見がたくさん出されました。後半は前半の討議のふりかえりを行い、最後に**増田先生**にまとめてもらいました。

【演習の様子①】



【演習の様子②】



### 【演習のまとめ】

- ・各班ともに「自分を知る」・「自分を持つ」という共通するキーワードから能力選択に繋げていた。
- ・たくさんの建設的な意見が出されたが、意見の出しっ放しではもったいないので、話し合った意見を今後役に立ててほしい。
- ・グループ討議の中で意見を出し合い考えることはとても大事である。（プロセスが大事）

### 【受講者の感想】

- ・御自身の体験を踏まえた、とてもわかりやすいご講義でした。特に『**注ぎ先を見ることなしには愛情は注げない**』は、これからの自分にとって生かされていく気がします。
- ・自分自身が今ちょうど子育て中なので、とても興味深い内容でした。実際により良い親子関係が作れるように、あと2回くらい講座を受講したいと思います。
- ・実際に育児休暇を取得した体験談は言葉に重みがありました。社会の支援・環境・考え方が実は障害となっていることがあるのだと理解できました。
- ・これまで多くの研修会で話題とされてきた家庭教育の在り方とは少し視点を変えたお話だったように感じました。新たな見方、考え方が大事だということを実感しました。
- ・親が学ぶ姿勢を見せることが大事だというのが、とてもよくわかりました。

### 〈講師プロフィール〉



#### 増田 貴人 氏（弘前大学教育学部 准教授）

広島大学大学院教育学研究科修了 博士（教育学）、臨床発達心理士  
 2003年 島根県立島根女子短期大学講師  
 2005年 弘前大学教育学部講師  
 2010年 弘前大学教育学部准教授  
 2014年 弘前大学大学院地域社会研究科准教授（兼任）

#### 【主な著書・論文等】

- ・「特別支援教育実践のコツ」（共著）（金子書房）
- ・「新・障害のある子どもの保育実践」（共編著）（学文社）